

2012/12/31

ナウリコット村再生プロジェクト／活動報告（2009年1月～2012年12月）

- ・ 2009年1月、ネパール現地の支援要望を運営会議に報告し、TDA事業として行なうことの基本的了承を得てスタート。
- ・ 2009年4月5日～16日、第1回現地調査を実施（会員4名を含む、6名が参加）し、現地ニーズ、課題等を調査した。基本的な方向として、「村全体をリビングミュージアム」とする構想を提案。
- ・ 本会機関誌「景観文化5号」（6月1日発行）にて、プロジェクト紹介。
- ・ 6月12日、JICA（NGO連携課）とJICA草の根技術支援事業に向けて相談手続きを開始。
- ・ 7月10日、東京にて現地調査報告会を開催した（50名強の参加者）。ゲストとして、竹中工務店設計部有志（AAF）によるネパール学校建築プロジェクトを紹介。

- ・ 2009年11月14日～26日、第2回現地調査を実施（会員3名が参加）。ポカラ地域周辺のエコビレッジ事例調査、ナウリコット村村民との対話・意思確認等（村民約40人参加）、関係機関への報告等を行った。
- ・ 2010年3月26日：ネパール人で東大生研特別研究員（博士）のリジャル ホム バハドゥル氏に面会、プロジェクトについてのアドバイスを聞く。氏は元々、芝浦工大の畑総一研究室に所属しており、畑研究室でのネパール集落調査に参加し、専門は建築室内の温熱環境。その後、畑名誉教授から、ネパール集落調査の資料を頂いた。

- ・ 2010年4月12日、同年8月22日：現地ツクチェ村と友好都市の関係を持つ富山県南砺市利賀村に、そのキーパーソンである中谷信一を訪ねる。当方の計画を説明し、アドバイスを求めるとともに、今後の協力を依頼した。
- ・ 2010年5月23日：現地キーパーソンのアルジュン トラチャンの来日に併せて諸協議。
- ・
- ・ 2010年6月10日～20日：第3回現地調査を実施（高橋が参加）。ローカルNGOの選定協議、現地諸事情の確認、JICAネパール事務所への報告、参考事例としてBandipurの町見学などを行う。
- ・ 2010年7月14日：JICAに対して、草の根プロジェクト申請として、事業アイデア相談、事業提案書等を正式提出、8月に追加資料（PCM分析シート等）を提出。
- ・ 平成22年7月31日～8月1日：JICA「NGO、地方自治体、大学等における国際協力担当者のためのPCM研修」（計画・立案コース）を受講、終了。同モニタリング・評価コースは同年10月30日～31日に受講し、修了。
- ・ 2010年9月14日：JICA、NGO連携課 国武主任調査役、中野調整員と協議。申請していたプロジェクトについては草の根プロジェクトとしての実施は困難との判断がされた。理由は、ハードの投入が大きい、モデルづくりで終わり地元での持続性に疑問、全体にいろいろな要素が入りすぎて団体としての専門性が発揮しにくい。向こうの要請に応じたプロジェクトにしてほしい。JICAのアドバイザー派遣制度などによりまずは

現地のニーズを引き出したらどうかとの助言をもらう。

- 2010年9月29日：古賀 学 松蔭大学 観光学科教授と面談。古賀氏は1989年にJETROの支援で利賀村がツクチェ村との交流を立ち上げた際、観光アドバイザーの立場で現地に派遣された。その後、現地に宿泊施設や、地域文化紹介、薬草センターの拠点として文化資料館構想を立てたことがある。諸アドバイスを頂くとともに今後の協力を求めた。
- 2010年10月12日：JICA、高田市民参加協力課長、平田調査役、中野調整員と協議。アドバイザー派遣制度について協議する。利賀村の経験を持つ中谷氏と古賀氏を派遣し、TDAが同行する方針を検討する。
- 2011年2月16日：来日したカトマンズのサンセットビューホテルのオーナー、HIROKOさんと横浜で面会。最近の現地事情について説明を受ける。
- 2011年2月26日：利賀村 中谷氏と東京、全国町村会館で面談。富山県南砺市との協働関係や今後の作戦などについて意見交換を行った。
- (2011年3月～12月：活動メンバーの個人的事情で、実質的に活動休止、その後再開)
- 2012年3月22日～4月9日：高橋がネパール訪問（第4回現地調査）を実施。今回はネパール国内で最大の観光地域であるエヴェレスト地域の集落開発状況を視察した。ナウリコット村のあるアンナプルナ・ダウラギリ地域と競合する地域であり、比較調査を行った。また、現地カトマンズにて、TDA会員の渡辺治郎氏と合流して小規模投資で実施可能な農家民宿プロジェクトのコンセプト検討を行った。
- 2012年8月～10月：小規模な農家民宿事業の事業スキーム等のコンセプト構築
- 2012年10月28日～11月6日：第5回現地調査を実施（高橋が参加）。現地キーパーソンのアルジュン・トラチャンに事業スキーム等のコンセプトを説明し、協議する。実施に当たっての主要ポイントは、以下の通り。(参考資料 コンセプトチャート)